

浜松協働学舎 支える会だより

〒 433-8108 浜松市北区根洗町 681 番地の 5 ☎ 053-430-0596
浜松協働学舎を支える会 代表 小林琴代

2016.6.15

NO. 58



このたびの熊本県を震源とする大地震の被害により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。浜松協働学舎では微力ながら私たちにもできることをということで、義援金を集めることや現地での救援活動の手伝いをさせていただくこととしました。阪神大震災を契機に生まれたNPO法人「ゆめ風基金」を通じて、五月中旬に被災地障害者センターくまもとに職員を派遣しましたので、派遣活動報告を紹介させていただきます。

被災地障害者センターくまもとへのボランティア派遣報告

浜松協働学舎根洗寮 山本幸代（生活支援員・臨床心理士）

今回の被災地支援は、入職後すぐでしたが、ゆめ風基金の方から「静岡県作業所連合会・わ」へボランティア派遣の依頼があり、私は出身地が九州であり、臨床心理士としてのこれまでの臨床経験を活かせると思い、派遣を希望しました。

出発前は、テレビでの被災地の様子や情報しかなく、障害者の方々の動向や支援内容がどの程度なされているのかが分からなかったため、何かがどこまで必要か、準備物にも悩みました。自分の安心材料の為もあった、保存食をいくつかは持参しました。出発当日、朝から家族から「無事で戻るように」と声を掛けられ、被災地での余震や困難な状況が身に迫っていることを改めて実感しました。熊本県内の新幹線は徐行運転で、また臨時ダイヤのため乗り継ぎに不安がありましたが、十五時頃には現地に到着しました。熊本は大雨警報が出ており、非常に足元が悪く肌寒い気候でした。

四月十六日の本震と、その後の度重なる余震による大きな被害と長期化する避難生活への懸念が広がる中、四月二十日に、被災した障害のある人の支援を行う「ゆめ風基金」（大阪市）と、被災地で障害のある人や移動制約者への移動送迎支援を行う「ももくり送迎基金」（大阪市）の他、ヒューマンネットワーク熊本、熊本障害者労働センター、きょうされん熊本支部、手をつなぐ育成会、視覚障害者福祉協会などが集まり、「被災地障害者センターくまもと」が立ち上がりました。センターでは四月三十日からボランティアの受け入れが開始されています。

被災地障害者センターくまもとは、障害のある人が電動車椅子を乗って行き来する風景をよく見かける地域の少し奥まったところに、民家を借りて運営が行われています。その事務所を拠点基地にして、相談があった案件に対して、ボランティアが二名一組で出動することが基本的な対応となっています。

私も到着直後から、スタッフへの自己紹介もままならないまま、激震地であった益城町へ出かけて行きました。道中、街の様子、センターの様子などを聞きながら、イメージを掴もうと必死でした。出動の目的は、「安全な避難場所があるので、移れるかどうか危険な建物に避難している家族に聞きに行くこと」でした。伺ったご家族は、自宅が半

壊から全壊の状態で、家屋調査の結果を待っている状態のご家族でした。前震後親戚の元に身を寄せ、そこで本震に遭い、避難所に移ったものの、お子さんが自閉症のために騒がしい中で過ごすことが難しく、危険と判断された地域の公民館に避難しておられました。訪問中に余震もあり、建物がミシミシときしむ音が聞こえました。結局、公民館での生活が今はよいとのこと、地域で見守ってもらいながら、避難生活を継続することになりました。



二日目は、震災以前から精神的に課題をお持ちの方の希望で、「とにかく話を聞いてほしい」というご依頼で出勤しました。色んなこれまでの人生のお話や、今回の震災の影響についてなど、色々お話になりました。印象的だったのは、「受診に行かねばならないと思いつつ、気力がなくて行くことが出来ないでいた。でも、今日話を聞いてもらって、行こうと思えた」と言われたことでした。継続的な面接が必要と思われたこともあり、かかりつけ医でのカウンセリングに通う意味などをお話しし、背中を押して終了しました。

この面談の後、洗濯の依頼が組まれていたのですが、精神障害のある方で、申込み時に決めた日程が難しくなり、受付対応をしていた方から調整をお願いしたのですが、応じてもらえずキャンセルになりました。障害の特性によって、色々な配慮が必要であることが浮き彫りになった小さなやりとりでした。



三日目は、知的精神重複障害のある方からの相談で、話を聞いてほしいとの要望で出勤しました。避難している親戚宅の方が、障害に対する理解がなく、かなり辛辣な言葉を掛けられている、家を早く出たい、というご相談でした。傾聴のみでの出勤でしたが、緊張や不安感も強く見られ、環境因が精神状態に大きく関与しており、分離した方がよいと見立てられたのですが、すぐにはどうにもできない内容でした。訪問看護をお受けになっておられたため、日中の時間に過ぎる場の情報提供をしつつ、ご本人と訪問看護のスタッフを含めた三者で面談することを提案し、継続支援が可能になる方法を模索しました。



四日目、家屋の雨漏りがするので何とかしたい、とのご相談が数日前にあり、しかるべき業者に対応してもらうように連絡を入れておいたが、連絡がないとの事でした。高所の作業は、基本的にはボランティアは対応しない方針であったため、様子見だけの出勤でした。お子さんが障害があるとのことでしたが、お父様も中途障害者であり体が不自由でおられました。男性ボランティアさんが家屋の確認中、私はお父様のお話の聞き役としておりました。屋外にあった旗などを立てる大きな丸太が危険な状態だったため、安全に格納する作業をしていた時、「これは、わしがこま頃、こいのぼりば立てた丸太だもんな。こっちは息子んと」とお話になったのが印象的でした。お父様自身と息子さんの幼少期にこいのぼりを支えた丸太を、無事格納することができ、思い出も一緒に大切に出来たような思いでした。

五日目は、浜松へ戻る予定にしていたので、午前中のみの活動でした。ちょうど、前震から一ヶ月の日でもありました。だんだん煮詰まってくる時期ということもあり、私が初日に訪問したご家族を再び訪問し、ご様子を伺いま

した。変わりなく過ごされていましたが、頭痛や腹痛などの身体的な不調もだんだん強まってきたとのことでした。訪問を終え、午後に入浴支援に向かうボランティアの方に、これまでの経緯から考えられる身体的不調、障害特性への配慮の仕方、入浴時の施錠の取り扱いやボランティア自身の入浴の可否などについて、簡易的なカンファレンスを設け、私は一路浜松を目指しました。

熊本駅に向かう道中、どうしても熊本城の様子を見ておきたかったので、行って見てみました。あちこちで石垣が崩れ落ち、美しい武者返しの悲惨な姿に、道行く人は皆ため息や驚き、立ちすくむ人、色んな悲しみが漏れ出ていました。普段は気が付かないくらい深い所で、熊本県民の心を支えていたものの一つであったことは間違いないと思えました。

今回の熊本での数日は、前震発生から四週目に入った時期でした。動きたいのに状況は変わらない中で焦りや不安が高まって、これからが精神的に辛い時期に入ってくるのだらうと思われました。

被災地障害者センターは民間の団体でもあり、現状では県全域の障害者の被災状況がなかなか把握しにくいポジションにあります。今後は行政や公的機関との連携を密にして対応をしていかなければならないケースが増えてくると考えられます。避難所が拠点化されていく中で、新しい場所へ移れない障害者の方や、拠点避難所に行きたくても行けないある種の「避難所難民」の行方を、誰がどのように追ってフォローしていくのか、暗中模索がまだまだ続くのではないかと思います。



障害者差別解消法が施行されました

障害者差別解消法とは？

平成 28 年 4 月 1 日に施行されました。行政機関や会社・店などの民間事業所による障害のある人に対する「障害を理由とした差別」を禁止する法律です。

民間事業所とは？

目的の営利・非営利や法人・個人を問いません。企業や店舗だけではなく個人事業所や社会福祉法人、NPO、ボランティア団体等も含まれます。



●不当な差別的取り扱い

正当な理由のない障害を理由としてサービスの提供を拒否したり、障害のない人にはつけない条件をつけること

障害を理由とする差別とは

●合理的配慮の不提供

障害のある人から配慮を求める意思表示があったにもかかわらず、負担になりすぎない範囲で「社会的障壁」を取り除く配慮をしないこと



車いすに乗っている人はお断りです、と入店を断られる

差別的取り扱い



知的障害のある人に手続きの付き添いを条件にする



車いすが段差を越えるときの手助けをする

合理的配慮



知的障害のある人へ、手続きに必要な書類を分かりやすいメモにして渡す

イラスト：「手をつなぐ 2016 年 5 月」より引用



初本当にありがとうございます。
みんなで大切に
使わせていただきます。

浜松ライオンズクラブ様より

タオルをいただきました

がとうございます。(榎木)



ボランティアさん ありがとうございます

ラポール根洗

ラポール根洗では、浜松市大瀬町の美容院『花屋敷』の古橋さんが、平成十四年から美容ボランティアとして毎月一回来所され、ご利用者の理容をしてくださっています。長年のお付き合いでご利用者の個性をよく理解してくださっており、髪型の提案から思いがけないような要望にも快く対応してもらえ、みんな安心して気持ちよく散髪をしてもらっています。談笑を交えた散髪の後はずっと爽やか、思わず笑みがこぼれます。古橋さん、いつも本当にありがとうございます。(榎木)



すてっぴ
松下麻知

私は母子家庭で育ちましたが、幼いころは祖父母と過ごすことも多く、祖父母は大正生まれだったため、田舎育ちで遠州弁もバリバリでした。その中で育ったせいか、平成生まれですが、周りには昭和っぽいとよく言われます。でも、祖父母が居てくれたおかげで、福祉の仕事に興味を持ち、今働いています。笑い方もガッツで、いつまで経っても昭和っぽさが抜けない25歳です。



浜松協働学舎根洗寮
山本幸代

今年度から根洗寮でお世話になります山本です。生活支援のお仕事ですが、臨床心理士という専門職でもありますので、その視点を役立てていきたいと思っています。利用者さん方と触れ合いながら「これまでどんな生き方をしてこれたのかを知っていれば、日常のひとときさても、もっと違う意味を見いだせるかもしれない」と改めて思っている最中です。利用者さん方の“生活の匂い”を大切に、笑顔の多い日々を増やしていきたいです。



浜松協働学舎根洗寮
山内淑高

昨年8月から根洗寮でお世話になっている山内淑高と申します。私は日々の業務を通じて、私自身が利用者さんの事を理解すると同時に、利用者さんにも私の事を知って頂き、より良い信頼関係を築いていけたらと考えています。一人一人の障害の特徴や性格を理解した上で支援の方法も工夫し、利用者さんにとって生活しやすい環境を提供していきたいと考えています。日々、勉強の毎日ですが、一生懸命頑張りたいと思います。



浜松協働学舎根洗寮
竹内理絵

5月から根洗寮でお世話になっている竹内です。以前は美容師として2年間働いていましたので、その経験を活かしながら「笑顔」「コミュニケーション」を大切に、利用者さんや職員の方々と楽しく安全で快適な暮らしを築いていきたいです。まだ入社して日が浅く、福祉の経験も無く至らないことの方が多いですが、利用者さんが嬉しい時、悲しい時は一緒に共感して、日々いろいろなことを感じながら経験値を上げてレベルUPしていきます。



第二青葉の家
藤田祐子

よく「天然だね」と言われます。もちろん自分ではそう思っていないません。真面目にしっかりとやっているつもりでいます。しかし、家族に話を聞いてみるとたくさん出てきました。ある時は、メガネをかけたまま「メガネがない!」と大騒ぎをし、家中歩き回ったり。こんな私ですが、明るく! 元気よく! が取り柄だと思っています。時間はかかるかもしれませんが、皆様から信頼される職員になれるように頑張っていきます。よろしく願いいたします。



浜松協働学舎根洗寮
鈴木健太

今年度より根洗寮で働かせていただく事になりました。昨年度まで介護保険サービスの中で働いていました。趣味は、登山です。働き始めて1ヶ月経ちましたが、まだ不慣れな所があります。1つ1つの事を確認して、山登りの様に1歩1歩しっかりと支援に当たらせていただきたいと思います。また職員の方々と切磋琢磨していきたい、ご利用者さんがよりよい生活を送ることが出来るお手伝いをさせていただきたいと思っています。

浜松協働学舎 新職員紹介

みなさまでどうぞよろしくお願いします。



工房めい
小杉有里

昨年9月より、さつきクラスを担当しています小杉有里と申します。みなさんと過ごす時間はとても楽しく、一日があっという間に過ぎていきます。これから笑顔を増やさず、みなさんとほっこりとした時間を過ごしていけたらよいと思っています。趣味は友達との長距離ドライブと雑貨屋さん巡り。近頃はなかなか出かけることが出来ずにいます。もっぱら中学、高校生の子供の予定で時間が過ぎていきます。



浜松協働学舎根洗寮
鈴木千春

私は、学生の時に根洗寮で実習させて頂いたことがあり、アットホームな雰囲気やご利用者さん一人一人を大切にされている職員の方々に憧れ、ここで働かせていただきたいと思います。入社して1ヶ月、自分の至らなさを痛感する日々ですが、ご利用者や職員の皆様の暖かい雰囲気の中で、毎日楽しく働かせて頂いております。ご利用者さん一人一人の快適な暮らしをサポートできるよう、日々努力していきたいと思っています。



相談支援事業所まど
白石美奈

私は、花や緑の多い春が好きです。庭にあるサクラノボの木も5年目の今年、赤い実を点々とつけました。初めて実がなったのは、3年目で10個ほど。きつと来年はもっとたくさんの実をつけてくれることを楽しみにしています。そんな木を見ながら、私も周りからいろんなことを吸収して成長し、小さな幸せを実らせたいと決意しています。至らない点も多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



浜松協働学舎根洗寮
前田高宏

昨年7月から寮でお世話になっています。最初の1か月目は何が何だかわからないまま時間が過ぎ、2か月目にはご利用者皆さんの個性が少しずつ垣間見え、食事をしたり、散歩に行ったり、毎日生活を共にしていくうち、半年後にはその個性を真正面から受け止めることができるようになってきたように思います。その個性を理解することでとても楽しくなってきました。まだ1年経っていない未熟者ではございますが、皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。



工房めい
伊藤基子

昨年度まで精神障害者の施設に勤務しておりました。福祉施設での勤務年数は長いのですが、知的に障害を持った方との関わりは初めてで、戸惑うことも多いです。その様な場面にでくわした時は、「これがクリアできたら経験値2倍!」新しいアイテム(技術)が手に入る!」などと、『戸惑い』と前向きに向き合いながら、それぞれの利用者さんのタイミングや思いに寄り添って、空気に近い安心感を持った職員になれたらなあ~と夢んでいます。



工房ゆう
林智恵子

1月より、協働学舎とご縁があり、工房ゆうで働かせていただいています。好きなことはバレーボールで、学生の頃の先輩や後輩達と毎週練習をやり、試合に出ています。試合に出ると学生の頃に味わった緊張感がとても新鮮で、一つの事にみんなで挑むプレーがとても楽しいです。そういうところでは、仕事に似ているなと感じます。チームワークがとても重要で、信頼できる先輩方と一つの目標に向かって、一生懸命になれる施設づくりに貢献していきたいと思っています。



青葉の家
竹本芳康

生まれも育ちも大阪で、47年間一度も関西を離れたことがなく、しかも7月までは人生初の一人暮らしを体験しています。何事も経験で自炊は楽しみながら何とかこなしています(洗濯掃除は…涙)。初めて暮らし浜松の印象は暖かく、親切で大阪より居心地がよいと感じます。大阪でも特に言葉の悪い「河内弁」で、何を言ってるのか判らない事もあると思いますが、宜しく願いいたします。



工房ゆう
水野佑哉

昨年7月より工房ゆうで事務担当として働かせていただいています。まもなく一年となり、5月からは一人で施設の事務を担当するにもかかわらず、よく分からないミスが多い(自分の役職を施設長と書き、あとで指摘されるなど)未熟者で、日々反省の毎日です。今後多くの方に迷惑をおかけすることもあると思いますが、精いっぱい頑張りますのでよろしくお願い致します。



第二青葉の家
柳瀬滋彦

初めまして、第二青葉の家の柳瀬滋彦(やなせしげひこ)です。趣味は自然の中で遊ぶことです。休日はマウンテンバイクで山を走ったり、釣りをしたり、メダカのお世話をしたりしています。社会人一年目には、友人と一緒に蚊取り線香にお酒とつまみ、タオルだけを持って養老ヘキャンピングに出かけ、何か所もヒルに噛まれ大変な思いをしました。今年は日本ミツパチに挑戦しようと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

○ 根洗作業所 クッキー・パウンドケーキ

浜松市北区根洗町 1117-1

Tel 053(436)5529

Fax 053(436)5746

レギュラーパックスクッキー
全 15 種類

ゴールドパックスクッキー
全 20 種類

パウンドケーキ (小)
全 20 種類

ゴールドパックスクッキー
全 20 種類



定価 259 円



定価 361 円



定価 361 円



定価 615 円

『しまうま倶楽部』は、根洗作業所のオリジナル製菓ブランドです。原料、素材にとことんこだわり、ひとつひとつ真心込めて焼き上げた、ひと味ちがう豊かな味わいが自慢です。事業開始から 20 年余、今では県下の多くの皆様に親しまれるようになりました。今後とも商品研究を重ね、皆様から末永く親しんでいただけるよう精進していききたいと思います。



10 袋入ギフト



5 袋入ギフト

○ 青葉の家 パン・シフォンケーキ・マドレーヌ

浜松市北区根洗町 1107-4

Tel 053(439)8235

Fax 053(439)8236



パン 価格 100 円～ 250 円



シフォンケーキ 小
価格 230 円～ 280 円



マドレーヌ 価格 120 円

現在しまうま倶楽部の仲間たちは毎日パンや焼き菓子の生産販売に誇りと生きがいを感じながら仕事に取り組んでいます。

「時間がたっても作りたてのように美味しいパン」をめざし、美味しいパンを作ることにこだわっています。不定期に新商品を出しますので、是非足を運んでみてください。

コラム「幸せなとき」

日常の中で幸せだなと感じたことを、思うままにかいていただきました。

「お弁当の卵焼き」 三井晴香

学舎に勤め始めてからお弁当を持参するようになった。今年で七年目ですが、時々手を抜きつつも作り続けています。お弁当作りは普段の料理を作るのとはまた違った楽しさがあります。作業が単純に楽しいのもありますが、作っているとき幼かった頃や学生時代を思い出して、懐かしく温かい気持ちになります。なかでもお弁当に身近な卵焼きには、忘れられない大切な思い出があります。

つい最近の事ですが、実家を離れる事が決まってから、しばらくの間、お弁当用に父が卵焼きを焼いてくれました。学生時代に母がよく作ってくれた甘い卵焼きと違い、ねぎと紅シヨウウガの入った出汁巻卵でした。

卵焼きにはそれぞれ家庭の作り方と味があると思います。甘いのか、甘くないのか。シンプルなものか、具沢山なのか。本当に色々だと思います。ある時父に、昔母が焼いてくれた、あの甘い卵焼

きが好きだったと言ったら、いつの日にか甘い卵焼きに変わっていました。また、少し硬かった焼き加減もふわふわな出来栄えになっていました。ある時父が、料理屋で作り方を教わってきたんだと、少し照れながら話してくれました。

母のお菓子のように甘かった卵焼きとはまた違う、父らしい優しく甘い卵焼きでした。

卵焼きは、いつの世までもそれぞれの家庭とともに、色々な卵焼きが受け継がれるのだと思います。私には母の作った甘い卵焼きと、父の作った甘い卵焼きの2つの思い出があります。

いつか私も子供を持つことが出来たら、父や母のようにお弁当に甘い卵焼きを作ってあげたいなと、ふと思う今日この頃です。



「猫様」 今田博貴

今、世間では史上空前の猫ブームだ。確かに最近テレビでコマースや映画、本屋でも、猫関係のグッズや書物が増えている。またその経済効果から「ネコノミクス」という言葉まで誕生している。

そんな自分も10年以上前から猫を飼っている一人。よく犬に比べて猫は人に懐かないとか、わがままなどといわれるが、そんなことはない。そもそも人に對しての考え方が違うのだ。

犬は餌をくれる人に對し「なんでこの人は食べ物してくれるんだろ？この人は神様に違いない！」と思うのだが、猫は「なんでこの人は食べ物してくれるんだろ？きつと自分は神様に違いない！」と思うそう。つまり猫にとって飼主は「主人」ではなく「同居人」へもしくはそれ以下」なので



ある。

うちの猫は気まぐれで夜布団に入ってきたり、忙しい時に限って遊べと言わんばかりに膝に入ってくる。忙しい時に限って。でも猫好きにとって、それを断るなんておこがましいことなのだ。ちなみに自分は軽度の猫アレルギーもちだが、それすら猫様の誘いを断る理由になり得ないのだ。同居人として認めてくれる以上、この先も付き合いは続くことだろう。ひと時の幸せを感じさせてくれる大切な存在だ。



「トランザクティブメモリー」 小針秀樹

先日、本を読んでいて、「トランザクティブメモリー」という言葉を知りました。

以前の私：「トランザクティブメモリーってどんな意味？」

今の私：「チームや組織等で効率よく学習するための考え方で、ある情報があったとして、それをみんなが知っているというより「誰が知っているか」をみんなが知っていることが重要になるそう」

「みんなが知っている方が便利ではないの？」

「もちろんそうだが、人によって学習の質・量には違いがあるし、一人で覚えられることには限界がある。近頃は手に入る情報もたくさんで、次々に更新されるため整理するだけでも一苦労だ。そうした状況で、

「誰が何を知っているか」を知っていれば、必要な情報に効率よく辿りつけるということだ」

「その人の得意分野や専門性を活かして、みんなで情報を活用する仕組みというわけだね」

「そのとおり。「情報の共有」全員が同じ情報を等しく知っていること」と思っていたが、このような考え方もあるわけだ」

「でも、情報AのことはBさんに聞くのが良いと多くの人が知っていると、問い合わせが集中してBさんが大変にならないかな？」

「そのおそれはあるから、Bさんの負担を減らす工夫やフォローをみんなが配慮できればいいね。問い合わせる方も良好な関係を維持するよう心掛け、いわゆるギブアンドテイクやウィン・ウィンの関係を目指すのも良いかもしれない」

「そう考えると、人に聞くのも大切だけど、自分の専門性を磨くことも大切だね。お互い頼り頼られるようになれば心苦しくないし、今まで以上に順調に物事を進められそう」

「チームや組織の良いところは、一人ではできない又は困難なことに取り組めることだ。トランザクティブメモリーという言葉を知ったことで、改めて考える機会を得たと思っているよ」

浜松協働学舎行事報告



成人を祝う集い

平成二十八年一月十二日（火）に浜松協働学舎根洗寮にて「成人を祝う集い」が開催され、三名の仲間が新成人を迎えられました。

新成人の方々は、スーツやドレスに身を包み、普段とは違う雰囲気の中、緊張した面持ちで式にのぞんでいました。川島理事長をはじめ、地域の方々、高木室長より祝福の言葉をいただき、先輩からも激励の言葉と花束を受け取って、大人の仲間入りをしたことへの喜びを感じられていました。最後に新成人からのお礼の挨拶をいただき、全員で舎歌を斉唱して閉式となりました。

新成人の皆様、この度は本当におめでとうございます。皆様の人生が豊かで実り多いものとなるよう、みんなで応援していきたいと思っています。

青葉の家 地域交流事業

ねあらい春のやきものまつり

毎年恒例「ねあらい春のやきものまつり」が、三月十二日（土）第二青葉の家を会場に行われました。今回も多くのお客様にご協力頂き、アトラクションやフリーマーケットなど、さまざまな形でまつりを盛り上げていただきました。感謝です。さて、会場内を見渡してみよう。まずはおまつりのメイン会場の陶器の販売です。今回は、「夢みるお家」のオブジェなど沢山の新作商品が展示販売されました。また、十四時よりタイムセールも行い、沢山の陶器をお買い上げ頂きました。また、中庭でのアトラクションコーナーでは、子供たちによる和太鼓演奏や中学生、高校生による楽器演奏など、活気の溢れるステージが！多くのお客様が足を止めて下さり、会場を大いに盛り上げて下さいました。

焼きたてパンの店「こもれび」では、抹茶大納言や抹茶マドレーヌなどの新作商品が大好評で、すぐに売り切れてしまいました。青葉うどんコーナーやポップコーンも好評で、休憩コーナーではご家族で舌鼓を打つ姿が多く見られました。

当日は晴天にも恵まれて地域のたくさんのお客様にご来場いただき、おかげさまで陶器や食品などの販売も好調で、何よりお客様の多くの笑顔を見られたことが嬉しかったです。地域の皆様と青葉の家が繋がった、そんな春の一日になりました。次回は十月八日（土）、秋のやきものまつりで皆様のご来場をお待ちしております。

平成 27 年度浜松協働学舎を支える会決算書

収入の部

科目	中区分	決算額A	予算額B	増減A-B	備考
寄付金収入		1,597,000	1,650,000	(53,000)	
	会費収入	1,332,000	1,400,000	(68,000)	会費
	寄附金	265,000	250,000	15,000	一般寄付
雑収入		180,921	242,000	(61,079)	
	バザー収入	179,220	240,000	(60,780)	やきもの祭り 121,130 スマイル祭 58,090
	雑収入	1,701	2,000	(299)	預金利息
合計		1,777,921	1,892,000	(114,079)	

支出の部

0

科目	中区分	決算額A	予算額B	増減A-B	備考
一般物品費		2,407	10,000	(7,593)	事務用品
印刷製本費		229,160	250,000	(20,840)	機関紙印刷代 封筒
通信費		181,088	200,000	(18,912)	郵送費
交通費		29,360	50,000	(20,640)	浜北連参加交通費
雑費		182,440	100,000	82,440	中元 歳暮 団体会費
小計		624,455	610,000	14,455	
特別会計繰入金支出		120,000	170,000	(50,000)	
	助成金	120,000	170,000	(50,000)	施設助成
予備費		0	0	0	
支出計		744,455	780,000	(35,545)	
当年度収支差額		1,033,466	1,112,000	(78,534)	次年度繰越金